

学校評価報告書

学校名 深谷市立藤沢小学校

校長名 嘉藤 央 印

1 **学校評価のねらい** (学校・園としての受け止め)

本校の教育活動及びその他の学校運営について、その達成状況を整理して取組の適切さを検証することにより、今後の組織的・継続的な改善を図る。また、学校関係者や保護者等から教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される学校づくりを進める。

2 **評価の方法** (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

(1) 全教職員から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。

○学校経営、教育課程の編成・実施等に関する評価

※学校経営等、学習指導等、PTA他計47項目について、4段階評価で実施。

(2) 学校関係者(学校運営協議会委員)から教育活動その他の学校運営に対して年1回、評価を実施する。

○教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価

○教育環境の状況に関する評価

※教育活動3項目、教育環境3項目、計6項目について、4段階評価で実施。

(3) 全保護者から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。

○教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価

○教育環境の状況に関する評価

※10項目について、4段階評価を実施。あわせて家庭での学習や生活の状況等(8項目)についての自己評価を実施。

(4) 全児童から学校生活での学習状況や道徳性について年2回、自己評価する。

○学校での学習状況や道徳性に関する自己評価

※17項目について、4段階評価で実施。

3 **評価の結果**

(1) 主な指標の変化

- ・児童への調査では、「学校が楽しい」が年間平均94.7% (昨年度比1%減)、
「学校が好き」が94.8% (昨年度比1.5%増) と、若干の増減はあるが、
昨年度と同様、自己評価は高い数値を示している。また、深谷市「6つの誓い」
の中の「ありがとうと言える」が97.4% (昨年度比2%増) 「くつそろえ」
が94.0% (昨年度比0.6%減) と、これも若干の増減はあるが、忠恕の心
が育っているといえる。調査項目、全17項目中で14項目が90%を上回って

いる。

- ・保護者への調査では、学校の教育活動に係る評価が、昨年度と同様、全10項目で90%以上の評価を得ている。特に、「豊かな心の育成」、「たくましい体の育成」、「教育相談」、の項目は98%以上を達成している。家庭での様子に係る評価8項目の中で、特に、「家庭での学習習慣が身に付いている」が77.7%と、昨年度比で4%減となってしまった。内訳をみると学年間の差が大きいので、全校で足並みをそろえて、意図的、組織的に取り組んでいく必要がある。

(2) 学校教育目標の具現化に向けた指標

- ・保護者アンケートでは、「やさしく思いやりのある豊かな心の育成」98.9%（昨年度比0.2%増）、「分かりやすい授業」97%（昨年度比1%減）、「たくましく健やかな体の育成」99.1%（昨年度比0.3%減）、「子どものことについて相談に応じている」98.1%（昨年度と同値）、「学校教育目標達成を目指し、計画的に教育活動をしている」97.6%（昨年度比0.5%減）と若干の増減はあるものの昨年度とほぼ同様な高い数値を示している。
- ・学校運営協議会委員による教育活動への評価は全6項目が「4」または「3」と評価しており、達成率は100%である。昨年度と同様に「家庭地域との連携」は全員が「4」の評価をしている。

(3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

○学校研究課題「よく考え、かかわり合い、豊に学ぶ、ふじさわっ子の育成」

- ・全体の傾向としては、17項目に係る評価2回の平均が93.5%（第1回：93.4%、第2回：93.7%）であり、年間通して高い自己評価の数値を示していると言える。
- ・児童の傾向としては、「友達に親切」や「ありがとうがいえる」、「先生の話素直に聞くことができる」などに係る項目が、年間平均で96%を超え、自己評価は高い。半面、「相手の目を見て笑顔であいさつ」「勇気を持って挑戦」「困ったときに先生へ相談」の3項目は、90%に達することができず、やや自己評価が低い。

4 次年度に向けての展望

全評価項目の90%越えを目指して、「ふるさとのような学校」作りを、より一層、推進していく。本校の課題である学力向上については、今年度の学力調査では、国や県と同等、もしくはそれ以上の良い結果をあげることができたが、「わかりやすい」授業づくりに次年度も継続して取り組んでいく。低位層の底上げはもちろんのこと、特に、中・上位層への働きかけにも配意し、全児童の力を伸ばす取組の充実を図っていく。